**校　長　池田　佳隆**

**平成31年度　学校経営計画及び学校評価**

１　めざす学校像

|  |
| --- |
| 校訓である「自主自律」「和親協力」を背景に、変化の激しい時代に対応できる人を育て、生徒・教員がともにチャレンジする学校をめざす。   1. 基礎学力の定着を背景に広い教養を身につけ、健全な議論や思考等ができる基礎的・汎用的能力の育成をめざす。   ２、急速に進むグローバル化に対応する英語教育を根幹とした新しい国際教育を研究・開発・展開する。  ３、自由な校風と校訓「自主自律」「和親協力」を背景に、学習と部活・行事の両立をはかる。 |

２　中期的目標

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| １、学力の向上   1. 学習習慣の定着を図る。   　ア．学校での学びと家庭学習を効果的に結びつけ、高校生として必要な基礎学力の定着をはかる。  　イ．探求的な学習を中心として学習活動全般で、社会人として通用する基礎的・汎用的能力の土台作りを行う。  ※効果検証　学力生活実態調査の結果：　【実績】 入学時 A3以上294名（H30）、294名(H29)、287名(H28)  高３のスタート段階 A3　63名（H30） 65名(H29)、47名(H28)  　　　　　　　　　　　　　　　　　　　【目標】H31年度…入学時9クラスでA3以上が約270名以上→高３のスタート段階が約80名以上   1. 教員育成のための研修・勉強会を実施し、統計資料を担保とした効果検証を行い、フィードバックを行い、次年度へつなげる。   　ア．上記（１）を実現するために、検討された内容を教科横断的な研修・勉強会を通じて、検討・定着を進める。  　イ．検討された上記（１）について生徒アンケートや模擬試験などの結果から効果検証とフィードバックを行い、授業実践に活かす。  　※効果検証　授業満足度（3項目平均）について、保護者アンケートにおける肯定的評価をH31度70.5％→2021年度80％以上。   1. 上記を実現するために必要な学校組織の業務運営の整備を進める。   　ア．上記（１）（２）を達成するために、スクラップアンドビルドを認識し、必要な業務内容を精選する。  　イ．特に、新カリキャラムへの移行に伴う諸課題を解決しながら、教員が生徒とかかわる時間を確保する。  ２、グローバル時代に対応する教育実践の導入と展開   1. ４技能を英語授業に毎時間組み込んだ授業展開とさらなる英語教育の充実をはかる。   　　　　ア．「骨太の英語力養成事業」の成果を踏まえ、４技能、特にoutput重視の英語教育を実施する。  イ．CEFRを外部評価基準とし、英語学力調査を国際科及び普通科全体で継続する。（評価指標は下記を参照、なお、H31年度１年生より９クラス編成）  ウ. 海外留学生の受け入れ態勢を準備・計画し、海外研修、国内キャンプ及び修学旅行などで英語教育の機会を充実させる。  エ．外部との連携を図り、生徒とともに教職員も学び続ける。   |  |  |  |  |  |  | | --- | --- | --- | --- | --- | --- | | １年生時Listening, Writing, Reading目標 | | | | | | | H31 年度 | | 2020年年度 | | 2021年年度 | | | B1 | 35名 | B1 | 40名 | B1 | 45名 | | A2 | 240名 | A2 | 250名 | A2 | 255名 | | A1 | 45名 | A1 | 40名 | A1 | 40名 |   （２） ロジカル・クリティカルシンキング思考を学び、そのスキルを習得できるよう「総合的な探究の時間」を  中心に実践を広げる。  ア．日本語のディベートやプレゼンテーションなどをとり入れ、ロジカル・クリティカル  シンキングを深めさせ、通常授業へ順次導入していく。   |  |  |  |  |  |  | | --- | --- | --- | --- | --- | --- | | ２年生時Listening, Writing, Reading目標 | | | | | | | H31年度 | | 2020年度 | | 2021年度 | | | B1 | 50名 | B1 | 50名 | B1 | 55名 | | A2 | 250名 | A2 | 255名 | A2 | 260名 | | A1 | 70名 | A1 | 45名 | A1 | 35名 |  1. 海外研修や修学旅行についても、事前事後学習も含む全過程を通じてロジカル・クリティカル   シンキングを使いながら成果発表へとつなげる。   |  |  |  |  |  |  | | --- | --- | --- | --- | --- | --- | | ２年生時Speaking目標 | | | | | | | H31年度 | | 2020 年度 | | 2021年度 | | | Grade6～Grade7 | 15名 | Grade6～Grade7 | 20名 | Grade6～Grade7 | 25名 | | Grade4～Grade5 | 260名 | Grade4～Grade5 | 265名 | Grade4～Grade5 | 270名 |  |  |  |  |  |  |  | | --- | --- | --- | --- | --- | --- | | １年生時Speaking目標 | | | | | | | H31年度 | | 2020年度 | | 2021年度 | | | Grade6～Grade7 | 10名 | Grade6～Grade7 | 15名 | Grade6～Grade7 | 20名 | | Grade4～Grade5 | 240名 | Grade4～Grade5 | 250名 | Grade4～Grade5 | 260名 |   ３、学習と部活・行事を両立しながらの進路指導・生徒指導の強化   * 1. 生徒の進路実現のために保護者・教員が一体となった支援体制を確立する。   　ア．国公立大学への進学実績を伸ばす。  　イ．海外大学進学説明会や国内外の関係機関との連携を深め、海外大学への進学をめざすシステムを確立する。  ※効果検証　ア：H30年度 49名を2021年度80 名以上。イ：2021年度は、海外大学進学希望者に対する合格者の割合として合格率80% 以上。   * 1. 生徒主体の部活動・行事の運営と学習との両立を進める。   　ア．基礎的な生活習慣の定着を進める。  　イ．生徒会を中心とした、自主的な活動を推進する。  　ウ．「大阪府部活動の在り方に関する方針」に沿い、生徒の自主活動や部活動と教職員の働き方とのより良いバランスを実現する。  ※効果検証　ア：年間遅刻者数をH30年度　4781件を、2021年度には約3300件まで減らす。  　　　　　 イ：自己診断「生徒会を中心とした自主的な活動が活発である」（生徒）2021年度には肯定的回答85%以上にする。（H30 79.2%）   * 1. 地域との連携を意識し様々な機会を通じて情報発信と協働を行う。   　ア．生徒会や部活動を中心に地域のイベント、清掃活動、ボランティア活動等に参加し、地域への協力を進める。  　イ．HP等の電子媒体、リーフレット等の紙媒体及び学校説明会等広報活動で情報発信についてさらなる充実に努め、本校への理解の向上をはかる。  ※効果検証　イ：　HP　更新回数　H31年以後は　70回以上を継続し、内容の充実に努める。  学校教育自己診断保護者の「ホームページをよく見る」における平成30年度47.2% → 2021年度 57%以上 |

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

|  |  |
| --- | --- |
| 学校教育自己診断の結果と分析［平成　年　月実施分］ | 学校運営協議会からの意見 |
|  |  |

３　本年度の取組内容及び自己評価

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 中期的  目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
| 学力の向上 | （１）学習習慣の定着  （２）教員研修・勉強会による教育力の向上  （３）学校組織の整備 | （１）授業と自学・自習をバランス良く実施し、基礎学力の定着をはかる。  （２）上記（１）を遂行するために、  ・新採者育成を含めた若手教員中心の勉強会を首席が中心となり年５回以上実施する。  　・授業アンケート（7、12月）の課題把握と成果検証と教職員へのフィードバックを実施し、授業改善に結びつける。  （３）新カリキュラムへの移行に伴い、学力がより一層向上するよう、学校組織における分掌・委員会の活性化をはかるとともに、中長期の視点に立った組織運営と人材配置を進める。 | （１）授業アンケートの「授業に対する生徒の取組み１」（必要な予習や復習）H30 2.85→3.0以上  　　　また授業アンケート8，9で　3.0→3.1以上  （２）以下の内容の完成と遂行をめざす。  ・新カリキュラム及び授業プロセスを中心に勉強会を実施。  ・自己診断「教員校内研修が役立つ」肯定感H30 73.7→77％以上  ・新採及び若手教員に対する人材育成ルートマップの完成。  ・自己診断の学習指導の保護者アンケート（3項目平均）における「肯定感」73.0％→76％以上  ・12月の授業アンケート学校平均（生徒意識1・2）H30　3.0→3.1以上。  （３）本校の学校教育自己診断における全般に関する質問で肯定感H30　85.5％→90％以上（生徒）  ・自己診断「教職員の学校組織に関する項目」の肯定感H30　75.6％→80％以上。 |  |
| グローバル時代に対応する教育実践の導入と展開 | （１）４技能を英語授業に毎時間組み込んだ授業展開とさらなる英語教育の充実  （２）ロジカル・クリティカルシンキングの理解と実践 | （１）  ア．広がる英語教育推進プロジェクトと教科内相互授業見学による研さんより４技能教授スキルと授業プロセス改善に取り組む。  イ．国際グループを中心に、GTECの現状分析と課題の把握を継続し、今後の方向性と課題解決策の策定作業を英語科とともに取り組む。  ウ．国内外英語教育機会への参加とその紹介に努め、  　参加に努める  エ．海外大学による模擬授業や外部機関による研修への参加の促進  （２）  ア．総合的な探究の時間の２年生全クラスでの円滑な実施。  イ．海外研修や修学旅行目的・実施について学校経営計画との整合性を高める。 | （１）ア、イ．１、２年外部評価試験全員受験で、2019年２学期実施で以下の遂行をめざす。   |  |  |  |  |  |  | | --- | --- | --- | --- | --- | --- | | Listening, Writing, Reading目標 | | | | | | | １年生 | | | ２年生 | | | | | B1 | 35名 | | B1 | | 45名 | | | A2 | 240名 | | A2 | | 260名 | | | A1 | 45名 | | A1 | | 50名 | | |  |  | |  | |  | | | Speaking目標 | | | | | | | | | | | １年生 | | | | | ２年生 | | | | | | Grade6～Grade7 | | | 10名 | | Grade6～Grade7 | | | | 15名 | | Grade4～Grade5 | | | 240名 | | Grade4～Grade5 | | | | 260名 |   ウ．海外研修80名以上参加の継続。海外研修の更なる内容検討と整備。事後アンケート満足度93%以上の継続。  エ．校内での海外大学模擬授業・説明会の複数回実施。  （２）ア、イ  ・２年総合的な探究の時間の公開発表会年２回以上実施及び海外研修の文化祭発表を実施し、学校全体や社会に開かれた活動とする。 |  |
| 学習と部活・行事の両立しながらの進路指導・生徒指導の強化 | （１）進路実現のために保護者・教員が一体となった支援体制の確立  （２）生徒主体の部活動・行事の運営と学習との両立  （３）地域への情報発信と地域との連携・協働 | （１）  ア．学年・教科での認識の差をできるだけ少なくするために、進路指導室を中心に定期的な研修や振り返りを実施する。  イ．カウンセリングマインドをもって生徒に接することにより生徒指導・進路指導おいて一層の成果をあげる。  （２）  ア．生徒会を中心とし、生徒主体の部活動・行事運営に関して、より発展的でシステム化されたものを検討する。  イ、ウ．「大阪府部活動の在り方に関する方針」に沿い、学習と部活のバランス及び教員の働き方と生徒の活動のバランスをとりながら成果をあげる。  （３）  ア．生徒会部・保健グループの支援のもと、生徒が中心となって地域との連携活動（清掃活動、ボランティア活動等）を実施し、地域への発信も行う。  イ．ホームページによる組織的な情報発信及び地域や教育産業等を通じた学校説明会を実施するなど、情報発信を丁寧かつ継続的に行う。 | （１）  ア．模擬テスト、英語外部テスト結果等の研修会の実施とその成果を進路指導に反映する。研修会を５回以上実施する。  　・国公立大学合格者H30年度　49名→　65　名  　・海外大学への進学合格率H30 63％→　70％以上  　・海外大学進学希望者に対する説明会の年間５回以上の継続。（H30　５回実施）  イ．学校独自のSC相談を5回以上確保する。また、自己診断「教育相談」（生徒）の肯定感H30　54.6→58％以上。  （２）以下の内容の完成と遂行をめざす。  ア．教員と生徒会の協力による生活規律の改善。  遅刻者数　H30　4781名→　H31　4200　名以下。  イ．ウ．生徒会・行事における生徒の自主性を育み、教員のファシリテーション力を強化する。自己診断「生徒会を中心とした自主的な活動が活発である」87%以上（H30　84.5%）  （３）以下の内容の完成と遂行をめざす。  ア．生徒会や各クラブが清掃活動を中心にボランティア活動等を年間50回（H30　40回程度）以上実施し、その成果をHP等で発信する。  イ．学校教育自己診断の保護者アンケートにおけるホームページ閲覧に関する質問での肯定率H30　47.2％→52％以上。更新回数年間70回以上、及び地域や教育産業を通じた学校説明会の15回以上実施を継続する。 |  |